



<http://www.sappororo.hokkaido-c.ed.jp>

学校だより 第3号
2026年(令和8年)8月26日発行
発行 北海道札幌聾学校
校長 菅野 弘尊
TEL 011-716-2979
FAX 011-758-7617

学校HPはこちら↓



時代は変わっても

— 地域とともに歩む学校を目指して —

地域支援部 黒木 亜由美

長い夏休みが終わり、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。久しぶりに登校した子どもたちの表情からは、この夏に家庭や地域でさまざまな経験を積み、一回り成長した様子が伝わってきます。その成長を支えてくださった保護者の皆様の御理解と御協力に、心より感謝申し上げます。

近年、「地学協働」という言葉を耳にする機会が増えました。これは、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら力を合わせ、子どもたちの成長を支えていく考え方です。

私が中学生だった頃は、校内暴力が社会問題となり、今では想像もできないような出来事が校内のあちこちで起きていました。そんな中でも、毎朝校門に立ち、あいさつ運動を続けてくださっていたのは、保護者や地域の方々でした。時には先生方以上に厳しく接してくださることもありました。しかし、その厳しさの根底には、私たちを思う温かい気持ちがあったことを、今になって強く感じています。今振り返ると、名称こそありませんでしたが、それもまた「地学協働」の姿だったのではないかと思います。

一方で、今の子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しました。SNS やインターネットの普及により、子どもたちの世界は学校や地域だけでは見えにくくなり、昔のように、気軽に声をかけたり、地域全体で子どもたちを見守ったりすることが難しい時代になっています。だからこそ、学校・家庭・地域がつながり、それぞれにできることを持ち寄りながら子どもたちの成長を支えていく「地学協働」の大切さを改めて感じています。

本校でも、地域の皆様には運動会や校外清掃などの教育活動に御協力いただくとともに、子どもたちの健やかな成長を温かく見守っていただいています。また、保護者の皆様には図書室の環境整備をはじめ、学校の教育活動をさまざまな場面で支えていただいています。このような一つ一つの活動が、子どもたちの豊かな学びや安心できる学校づくりにつながっています。これからも「地域とともにある学校」として、学校・家庭・地域が力を合わせ、子どもたちの健やかな成長を支えてまいります。今後とも温かい御理解と御協力をよろしくお願いいたします。



幼児・児童・生徒の活動の様子

幼稚部 おとまり会

「みんなで仲良く楽しく過ごそうね！」を合い言葉に、幼稚部最大のイベントおとまり会を実施しました。おばけからの手紙が届き大泣きをした子を守ろうとクラスで話し合ったり、カレーライス材料を買いにアークスに行ったり、事前から大盛り上がりの年長さんでした。消防署での放水体験、汗と涙の肝試し、笑い声の絶えないお風呂タイム、なかなか寝付けなかった長い夜、思い出を振り返ったお絵かき・・・どれもとっても楽しい時間となり、7人の絆もますます深まりました。

(文責：

吉田摩弓子)



小学部 修学旅行

7月2～3日に登別・白老へ修学旅行に行ってきました。子どもたちは、クマ牧場やミナパチセで手話による貴重なお話を聞き、地獄谷では校長先生から硫黄の学びを得て、知識を深めたことが印象に残っているようでした。また、伊達時代村での自主研修では仲間と喜怒哀楽を分かち合った時間や「早く温泉に入りたい！」と無邪気に笑い合った時間も、全てがかけがえのない絆となりました。身も頭も満たされ、一回り大きく成長した姿に胸が熱くなります。宝物の

ような充実の2日間でした。

(文責：

木村亮太)



小学部 宿泊学習

力を合わせて挑戦！宿泊学習

7月16日・17日の2日間、5年生6名が宿泊学習へ行ってきました。

小樽の天狗山登山では、「美味しい昼食が待っているよ！」とお互いに声を掛け合い、素晴らしいチームワークで見事に山頂まで登り切ることができました。

続く野外炊事でも、役割を分担して手際よく協力し合い、大満足のカレーライスを完成させました。仲間と励まし合いながら困難を乗り越え、充実した笑顔があふれた2日間。この経験を通して深まった絆と成長を、今後の学校生活にも活かしていってほしいです。

(文責：

谷奈々美)



中学部 宿泊学習

宿泊学習の目標は「みんなで協力して楽しむ」。生徒たちは、役割分担、当日の内容決め、しおり作りなどを、話し合い活動を通じて協力して準備の段階から進めました。当日は、気候にも恵まれ、全ての活動を計画通りに実施することができ、どの活動も生徒たちが主体となって行うことができ、疲労があっても笑顔で楽しむ様子がありました。振り返り学習では、5人全員が仲間としての絆が深まったという感想をもち、これからの学習活動も5人で力を合わせて乗り越えていこうと誓っていました。

(文責：佐藤圭)

